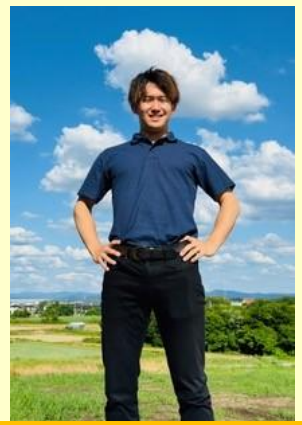


Interview #07

*2026年3月インタビュー

2026年3月所属：生命農学研究科 動物科学専攻
(東海国立大学機構メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業RESEARDENT)
2026年4月所属：コロラド州立大学 ポスドク



生命農学研究科 市川 怜 さん

これまでやってきた研究の概要を教えてください。

私は生命農学研究科の動物科学専攻に所属していて、家畜の繁殖に関わる研究をずっとやっていました。具体的には牛を使って、妊娠しにくい個体が畜産現場にいる中で、「なんで妊娠しにくくなってしまおうのか」とか、「どうすれば妊娠の成功率を上げられるのか」といったことを考えていました。牛の子宮や受精卵の状態を見ながら、どんな要因が妊娠率を下げってしまうのか、逆にどういう条件が揃えばうまくいくのかを調べていくような研究です。現場にも関わるテーマなので、自分の研究がどこかで役に立つかもしれないと思いながら取り組んでいました。

この春からはどういう仕事をする予定ですか？

この春からは、アメリカ・コロラド州にあるコロラド州立大学でポスドクとして研究を続けます。きっかけは国際学会でした。2024年7月にアイルランドの学会で今の受け入れ先の先生と初めてお会いして、たまたま食事をご一緒する機会があって、そこで自分の研究の話や先生の研究の話をして、「ここ面白そうだな、自分に合うかもしれないな」と思ったのが最初です。その後、2025年1月頃に「ポスドクのポジションがあるけど興味ある？」と連絡をいただいて、そこから本格的に進路として考え始めました。さらに2025年9月には短期でその研究室に滞在させてもらって、お互いに本当にマッチしているかを確認する機会をいただきました。そこで、自分のこれまでの経験やスキルが向こうにとっても必要だと分かりましたし、自分にとってもやりたい研究ができる環境だと感じられたので、最終的に行くことを決めました。ポスドクとして働くため、自分だけにメリットがあるのではなく、win-winであるかということも重要であるため、先方にとって自分が貢献できることを考えてPRするのがポイントです。

就職活動の経緯や、キャリアに関する考え方は？

実はアカデミア一本で考えていたわけではなくて、企業も並行して見ていました。学会で知り合った方がベンチャー企業にいらっしゃって、そのご縁で日本のディープレック系の企業で3カ月ほどオンラインのインターンに参加しました。そこでは研究者のミーティングに入らせてもらって、企業の中でどうやって研究開発が進んでいくのかをずっと追わせてもらってました。そういう経験を通して、企業にはこういう人たちがいてこういう働き方をしているんだ、アカデミアとは違う点はこういう感じなんだ、というのを自分なりに見ていく中で、「自分にとって一番いいのはどこなんだろう」と考え続けていました。最初からどちらかに決めていたわけではなくて、いろいろ見た上で、最終的に自分はアカデミアでやっていきたいなと思えた、という流れでした。

キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

一番大きかったのは学会での経験です。国内外いろいろな分野の学会に参加して、国際学会にも博士の間に3回行かせてもらいました。発表するだけじゃなくて、自分から話しかけて、できるだけ人とつながることを意識していました。特に印象に残っているのは、博士1年のときに国際学会で口頭発表の機会をもらったことです。正直すごく怖くて、「自分の英語なんて通用しないんじゃないか」と思っていたんですが、実際にやってみたら、なんとかやり切ることができて、「あ、意外といけるんだな」と思えたんです。そこから、英語は完璧じゃなくても伝えようと思えば伝わるんだと感じて、海外に対するハードルが一気に下がりました。あとは、自分に必要だと思ったスキルは自主的に取りにいきました。例えばデータ解析は必須だと思って勉強していて、岡崎にある基礎生物学研究所のトレーニングに参加して、集中的に学べたのはすごく大きかったです。

■ 就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

一番は主体性かなと思っています。自分から動いていく姿勢は見てもらえたのかなと感じています。例えばデータ解析のスキルは、研究の中で必要だと思って自分で勉強して身につけたものなのですが、そのスキルを使って受け入れをしてもらう研究者の先生に「この研究室でこういうことができるんじゃないか」と自分から提案するようにしていました。向こうの研究室としても、やりたいけどまだ手が回っていない分野だったので、そこに自分が貢献できると伝えられたのは大きかったと思います。与えられたテーマをこなすだけでなく、「自分はここで何ができるのか」を考えて、テーマ自体も一緒に作っていくような動きが評価されたのかなと思っています。

■ 後輩たちにエールをお願いします。

研究って、就職する人にとっては直接仕事に関係しないことも多いと思うんですが、それでも「何かに本気で打ち込んだ経験」はすごく大事だと思っています。

テーマが将来に直結するかどうかよりも、自分で考えて、計画して、実行して、うまくいかなかったらまた考えて、というプロセスを回した経験が大事で、それは絶対に無駄にならないと思います。

結果が出るかどうかは正直運の部分もあるので、周りとは比べすぎなくていいと思います。自分なりに一生懸命やったということが、あとでちゃんと自分の力になってくると思います。

僕自身は、研究って「まだ誰も知らないことを見つけられるかもしれないもの」だと思っていて、そこにすごくワクワクしていました。そういう楽しさとか、自分なりの意味を見つけられると、しんどい時期も乗り越えやすいんじゃないかなと思います。